

桜の季節も終わり、会員の皆様にはますますご健勝にてお過ごしのことと存じます。この冊子がお手元に届けられる頃には、すでに初夏の気配さえ漂いはじめているかもしれません、天候の予測は、AI（人工知能）の普及が話題になる昨今でも、なかなかままならぬようではあります。

本年は、そのはじめの三ヶ月だけでも、平昌オリンピック・パラ



前橋積善会理事長 栗本 信昌

リンピックでの日本選手の活躍、文書改竄問題をめぐる国会の応酬、前橋の街が例年になく積雪に見舞われたことなど、様々な印象深い出来事に彩られました。個人的に忘れがたい出来事を体験された方も、少なくないことでしょう。

平成三十年の春に

四月は、学校でも職場でも新年度のスタートの季節です。「新しい年のはじまり」として、気分を一新する機会でもあります。この四月は、また、「平成」最後の一年のはじまりのときでもあります。平成の三十年は、まさに波乱の三十年でもありました。平成改元

件、アメリカ同時多発テロとアフガン・イラク戦争、さらにリーマンショック、中東情勢の不安定化、そして東日本大震災と続き、いままなお世界は紛争と難民、貧困と飢餓に苦しみ続けています。

このような世界を前にすると、個人の力はあまりに

小さく、そして弱いようにも思われます。しかし、苦し

みの中にもいる人もま

の頃、日本はまさにバブル経済のただ中にあり、東西冷戦も終結し、多くの人々が豊かで平和な二十一世紀の到来を期待していました。しかし、歴史の予測も天候以上に難しいものです。実際には、湾岸戦争、阪神淡路大震災とオウム事

た、一人ひとり顔と名前を持つ個人にほかなりません。そして、国や故郷を追われた人々、差別や病に苦しむ人々が、一様に訴えるのは、自分が他者に必要とされていないのではないかと不安、そして、世界から無視され、いなくなった

ことにされるという恐怖であるといえます。それはまた、遠く離れた国や地域だけでなく、身近な場所、もしかすると家族や学校の中にも生まれる想いなのかもしれません。

「もしも世界の終わりが明日だとしても、私は今日林檎の種をまくだろう」……劇作家の寺山修司がゲオルグ・ゲオルギウの言葉として紹介し、広く知られるようになった一節です。道元禅師の「而今（にこん）」、すなわち「今このとき」に自分ができることをする」という言葉にも通じるものでしょう。

小さく微弱な個人の力でまずできること。それは、知ること、感じることで、そして考えることです。ほかならぬ「善を積む」ことは、そこからはじまるはずだ。

平成の三十年間は、積善会をとりまく状況も、なかなか厳しいものでした。そんな中、会員一人ひとりの皆様のご努力、ご協力によって、積善会も確実に活動の充実を図ることができました。前橋東看護学校、精神科デイケアセンター「あしたば」、厩橋病院精神療養病棟、医療福祉相談室、そして厩橋病院西棟の完成に続き、昨年度はグループホーム「コスモスの風」を開設することができました。それらはまさに、「二人ひとりが今できること」の積み重ねによって実現したものです。

会員の皆様の想いがどのようなかたちで結実しているかをあらためて感じていただくためにも、ぜひ一度、美しい環境に整備された江木町の諸施設まで足を運びください。

桜の季節は駆け足で過ぎ去り、はや葉桜の季節となりましたが、会員の皆様方におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

旧年度中は新棟、オーダリングシステム、グループホームといった様々な新しいツールが当院にも導入さ

れ、当初は慣れぬが故に戸惑うことも多かったように思いますが、大勢の皆様方の多大なご協力もあってどうにか無事使いこなせるようになり、ようやくその恩恵を実感できるようになってきていますように思います。ご協力、誠にありがとうございました。

まだお気づきでない皆さんも大勢いらっしゃるのではないかと思います。実は四月の年度開始と同時に、もう一つの新しいツールが新館ロビーの一角で予定より一年も遅れてひっそりとスタートしています。「前橋積善会・厩橋病院歴史展示コーナー」です。歴

史展示コーナーがなんでもツールなのかと思われる方もいらっしゃると思いますが、前橋積善会の百三十八年間の歴史は、私たちにとって真にかけがえのない資産・資源であり、われわれ会員のみならず、ここを利用されている患者さん達の心に訴えかける内容を